

飛躍のかぎ握る大館能代空港

来年度着工へ正念場

大館能代空港が新規事業に格上げされ、来年度着工が実現するかどうか、正念場を迎えています。先月十五日、大館能代空港建設促進期成同盟会（会長・小畑市長主催の特別講演会が鷹巣町で開かれ、村岡兼造前運輸大臣が「八月中にも新規事業へ格上げされる空港が決まる」など当面のスケジュールを明らかにしました。また、期成同盟会の事務局が能代市から大館市の担当となり、市では七月十六日付で専従職員を配置しました。事務局では国や関係機関への陳情活動を計画するなど、来年度着工へ運動を強化しています。

新規事業格上げ

6空港がしのぎ

大館能代空港建設を求める運動は、全国一日交通圏への参入



庁内に設置された「同盟会事務局」

石垣」の六空港が組み入れられており、新規事業への格上げを目指して、それぞれ運動を展開しています。第二のハードルは、現在、課題となっている①需要の確保②空港の周辺開発——を進め、新規事業への格上げを実現することです。

条件面では有利

平成9年開港も

と地域の活性化を図る目的で、昭和六十二年にスタートしました。官民一体となった国や関係機関への陳情や決起大会の開催など、粘り強い運動が実を結び、去年十一月には国の第六次空港

特別講演会で村岡前運輸大臣は①運輸省は八月中にも県からヒアリングを受けて検討委員会を開き、予定事業から新規事業への格上げについて検討する②来年度着工を実現するには、八月末にも決まる政府予算案の概算要求に空港の実施計画調査費を計上しなければならぬ——

整備五カ年計画へ予定事業としての組み入れが閣議決定され、第一ハードルをクリアしました。現在、予定事業には「大館能代」をはじめ「静岡」「びわこ」「神戸」「小笠原」「新

さらに、用地買収や建設費など

どの条件面で「大館能代」が有利な位置にあることを強調し、「国の来年度予算に実施設計調査費が計上されれば、場合によっては当初予定より一年早い平成九年の開港もあり得る」と述べました。

ブロックごとに

波状陳情を計画

一方、大館市が担当となった期成同盟会事務局では、こうしたスケジュールをにらみながら、先月、三日間にわたって関係当局に陳情を行いました。今後は、大館鹿角ブロック、鷹巣阿仁ブロック、能代山本ブロックごとに行政、商工、農業団体がそれぞれ波状的に陳情を繰り広げていくことにしています。

また、今月六日には県議会の高速交通体系整備促進特別委員会が空港建設予定地の鷹巣町を行政視察し、建設促進期成同盟会役員と懇談、来年度着工へ向けて情報を交換する予定です。

人事異動

七月十六日付で人事異動がありました。課長級以上についてお知らせします。

- ◆市長事務部局：野口 洋一
- 職員課主幹 高橋 清
- 下水道課長

市長リポート



No.26

空港第二ラウンド

大館能代空港建設の第二ラウンドが、大きなヤマ場を迎えています。

運動の第一ラウンドは、第六次空港整備五カ年計画への組み入れてした。第二ラウンドは着工へ向けての運動になります。運輸省では今月中にも委員会を開き、大館能代空港などの新規事業格上げを検討する予定です。また、今月末には来年度予算案の概算要求が行われますが、その中に実施設計調査費を計上してもらわなければなりません。

この重要な時期に、「大館能代空港建設促進期成同盟会事務局」が、能代市から大館市にパトナタッチされました。大館市は、来年度着工を目指した運動の先導役を務めることになりました。事務局には空港担当の職員を配置し、万全の体制で臨んでいます。市民挙げて運動していきます。空港は必ず実現できます。ここの二カ月が天王山です。来年度着工目指してみんなで頑張ります。

小畑 元